

福祉にいがた

Fukushi Niigata

CONTENTS

巻頭特集

こども発達支援所「はる」
0歳児から18歳までの切れ目ない支援
(2～3面)

- 県社協令和元年度事業実績報告・概要
- 「地域紡ぐ」 三条市のNPO法人KaFuKaの活動紹介

7月号
2020
第815号



絵 しゅんすけ「チューリップ畑とさる吉くん」(えかき・新潟市西区)



社会福祉
法人

新潟県社会福祉協議会

<http://www.fukushiniigata.or.jp/>

0～18歳の障がいのある子どもらに 専門家チームが切れ目ない支援

～村上市「こども発達支援所 はる」～



2018年4月に村上市に開設された「こども発達支援所 はる」（齋藤武・代表理事）は、障がいがある子どもらを乳幼児期から18歳まで、総合的、継続的に支援する「身近で頻繁に通える施設」です。理学療法士や言語聴覚士ら専門家チームが一丸となって、一人一人の発達状況に合わせた支援に当たり、看護師の常駐で医療ケアが必要な子どもにも対応します。今後は、成人の支援を行う入居型施設の設置も視野に入れています。

重度の子には居宅訪問

「はる」の開設は、代表理事の齋藤さんの息子さんが障害を抱えていたことに始まります。「村上では受けられる専門的サービスがなかった。新潟に1カ月に1、2回ほど通うだけでは効果が小さい。近くで頻繁に支援が受けられることが大切。自力でやるしかない」と考えた」と振り返ります。「乳幼児期からの支援体制を作り、質を高め、成人になった子どもたちが活躍できる環境を築きたい」との願いが込められています。2017年に運営主体の一般社団法人 Natural を立ち上げました。

■専門医と連携

「はる」の大きな特長はチームで、医療、教育、保育の観点から、子どもの発達を後押しすることです。対象は0歳児から。理学療法士、言語聴覚士、看護師、教員、保育士、社会福祉士らが、発達障害専門小児科医と連携して当たります。今年からは作業療法士も加入しました。日常生活の自立をはじめ、社会性を身に



付けるなどの個別プログラムを作成、個別、小集団、集団訓練などで関わり、学習支援や就労支援も行います。

市内や概ね10キロ圏内の送迎も可能で、車椅子利用の子どもや吃音などの言語訓練だけの利用も受け入れられています。保護者のケアにも努めています。

■全て受け入れ

人工呼吸器を付け医療リスク・感染リスクのある子どもには、それぞれの家庭に出かけてリハビリテーションを行う「居宅訪問型児童発達支援」にも力を入れます。関川村や新発田市へも出掛けています。県内ではここだけの支援と思われま

す。村上市内だけではなく近隣地域の保育所への「訪問支援」にも取り組んでいます。保育園や学校に通える環境づくりも大きな役割です。開設以来多くの利用があり、現在の利用登録は100人を超えています。通所が7割ほどだそうです。「自閉スペクトラム症やADHD、ダウン症など支援が必要な子どもたちは全て受け入れている」と言います。今年4月から、「放課後等デイサービス」を中心とした「はるstep」を市内に開設しています。

■外部研修積む

求められる、より専門的

「こども発達支援所 はる」 利用案内

【利用までの流れ】

- ①「はる」まで見学、相談ください
- ②受給者証の申請
- ③相談支援員との相談
- ④「はる」の利用手続き
- ⑤利用開始

【利用日】

月～金曜日(土・日・祝日休み)

【児童発達支援(0～6歳)】

9:00～12:30

重症心身障害児 9:00～17:00

前後1時間程度の延長あり

【放課後等デイサービス(7～18歳)】

(平日) 放課後～17:00

(学校休業日) 9:00～17:00

重症心身障害児 9:00～17:00

前後1時間程度の延長あり

【保育所等訪問支援(0～18歳)】

9:00～17:00

【居宅型訪問児童発達支援(0～18歳)】

9:00～17:00

【日中一時支援(7～18歳)】

朝の預かりも致します

8:00～始業

【相談支援】

13:00～17:00

※利用料金を含め詳しくは下記にお問い合わせください。

- 住所 村上市羽黒町11番23号
- 電話 0254-62-7200
- FAX 0254-62-7370
- Eメール haru@shien-natural.net
- ホームページ <http://shien-natural.net>



な支援に対応するため、職員の専門性を高め、専門家を育てる試みにも力点を置いています。「年間20～30の外部研修に出している。学んだ知識や情報を共有しながら高みを目指している」。25人ほどの職員は日々、支援の質向上への努力を続けています。



受けている子どもは、騒ぐこともなく落ち着いて勉強

しているそうです。「早期の支援が大切と言われてきたが、やはりそうだった」「はる」の取り組みに自信を深めています。



「差別や偏見をなくすため、祭りや近くのお店などいろんな所に連れて行っている。障がいのある子どもが当たり前にいるということを知ってほしい」と思っています。

■選肢肢広げる

立ち上げメンバーで業務執行理事の櫻井晶さんは「児童発達支援のセンターとして、中核的役割を果たしたい」と強調します。齋藤さんは「やりたいと思うことがやれるよう、将来の選肢肢を広げる支援を提供したい。モチベーションが上がるように限界があってもサポートする」。子どもたちの活躍を期待して後押しを続けます。